学生新聞

放送大学
埼玉学習センター
埼玉CSC交流会
学生新聞
編集委員会
〒330-0853
さいたま市大宮区
錦町682-2
TEL048-650-2611

第13回埼玉フェスタ開催

テーマは「あなたが主役」
～未来に向かって～を掲げて

音楽祭や体験コーナーも

第13回埼玉フェスタが、9月第2週の週末14日（土）と15日（日）の両日に開催された。

今年の埼玉フェスタは「あなたが主役～未来に向かって」というテーマを掲げて、全く新しいフェスタの実現に努力を重ねた。実行委員会は、今までとは異なる困難な作業を経て、魅力的なフェスタを開催することに成功した。9月のこの週末には、沢山の学生達や同窓生達だけではなく、会員以外の一般の人も新たな交流を求めて埼玉学習センターに集い、センターは例年以上に賑わった。

実行委員会はフェスタ前日から準備

14日（土）

フェスタの初日は、8階の第6講義室で音楽カフェ、9階第1講義室とパソコン実習室での体験コーナー、8階講堂の音楽祭で一斉に幕が開いた。

この後の体験コーナーでは、「いけばな体験」やフットケア指導士による「あなたの足は大丈夫?」の指導後、ソシアルダンスクラブの代表が「簡単なダンス体験」を指導。ステンドグラス体験では、アクセサリー作りなどを楽しみ、パソコン実習室では、インターネット体験も行われた。

一方、講堂で行われた「音楽祭」では、午前中に個人演奏と腹話術や詩吟、民踊などの多彩なパフォーマンスが披露された。昼食を挟んで午後からは、福井克明氏による「皆で歌っちゃおう！」で大きな声で歌う楽しさを体験。

また、W・W・Mによる合唱と器楽演奏やシューベルトのワルツに合わせて、舞踏研究会がダンスを披露した。講堂での最後の演奏は、毎年恒例になっているジャズ・ライブコンサートが懐かしい曲の数々を披露して、曲に合わせてダンスを楽しむ人々も沢山いた。

講堂以外では、第3講義室で卒業研究や修士論文の発表が行われたほか、英語倶楽部が英国人講師による英語レッスンを行った。第4、第5講義室には個人作品の展示が行われ、午後には、面接授業講師による絵画や書道の講評なども行われた。

ジャズ・ライヴコンサート

15日（日）

2日目は、朗読の会「こころ」の朗読劇で開幕し、「ほとほと歳時記」よりの6作品を「語る歳時記」として発表。「こころ」の公演を楽しみにして、講堂を埋め尽くした客席を感動させた。第1講義室では、昼前から「サークルおおみや」による映画のDVD鑑賞会が催され、午後は熟年会の公開勉強会が行われた。

第6講義室の音楽カフェでは、次々と腕自慢の演奏家が舞台に立った。第3講義室では、前日同様に論文発表が行われた後、大橋容一郎教授等による論文相談やシンポジウムが行われた。第5講義室では未来の会による「絵手紙教室」が行われ、参加者が絵手紙に挑戦をしていた。また8階講堂では午後から、「健康体操研究会」の指導で体操が行われ、「舞踏研究会」や「ソシアルダンスクラブ」の演技などが披露された。

お茶席で優雅にお茶を楽しむ

全員参加で元気に盆踊り

2日間共通イベント

今年は第2講義室にお休み処が設けられ、茶席のサービスも行われた。

一方、毎年行われていたバザーの会場が狭くなり、自分の提供した品物が見当たらないと不満を漏らす人もいた。小笠原や陸前高田の物産展は展示ブースが小さくなり、期待が外れた人もいたようだ。

2日間を通して、非常に多彩な催しが披露されたが、一度に演じられる演目があまりに盛り沢山で、残念ながら参加できなかったという声も少なからず聞こえた。

最終日の懇親会パーティでは、恒例の俳句・川柳大会の入選作品が各3句ずつ表彰された。また、賛助券の番号による福引きも行われ、非常に盛り上がった。

（冬木）

ファンを魅了したこころの公演

第13回埼玉フェスタ俳句・川柳大会

＊俳句入選句

秋の虹介護の日々の十年目　難波明美
紫陽花や心を揺らす鮮やかさ　坂本賢一
鍵盤に羽打ち休む赤とんぼ　佐藤マサ子

＊川柳入選句

埼フェスタ老いも若きも女学生　難波明美
ＡＩに課題レポート任せたい　橋本安義
世代かな夢のスマホも持ちぐされ　坂本賢一

第13回埼玉フェスタご協力のお礼

埼玉ＣＳＣ交流会　代表　大島祥市

関東をおそった台風15号の爪痕が、千葉県を中心に各地に残る中、埼玉は大きな被害もなく9月14、15日の2日間、むしろ穏やかな天候に恵まれ、予定通り実施、成功裡に終えることが出来ました。

実行委員や関係各位、そして何よりもご来場下さった皆様のおかげと感謝しております。

私も2日間論文コーナーを担当し、委員長からの「あなたが主役」のかけ声に踊らされ、忙しくも楽しいフェスタが体感できました。

ありがとう。

第13回埼玉フェスタ

ご来場ありがとうございました

フェスタ実行委員長　南雲　功

9月14日、15日の両日、放送大学埼玉学習センターにて第13回埼玉フェスタが開催され、所属の学生、同窓生、近隣の学習センターのみならず、多くの市民の方もご来場いただきました。

今回は、「あなたが主役」をテーマとして、サークルに所属していない学生、市民の方にも参加していただくことを目標にして、2月より準備をすすめてまいりました。

来場者数は昨年の317名を大幅に上回る400名以上の方にご来場いただきました。通信教育や面接授業だけですと、一人でこつこつと勉学を進めがちですが、共に学び仲間と語らい、学習の問題点を見つけ解決し、研究の新たな視点からの対話など、出会いの場を模索してみました。

実行委員もサークルとは離れて、個人の資格で各イベントや賛助券販売、広報、会計などを担当し、幅広い活動を繰り広げて頂きました。

イベントの内容は、昨年に加えて、研究の口頭発表、体験コーナー、お祭り広場を新たに実施しました。また、学習センターのご協力により、客員教授をはじめ面接授業の先生方にもそれぞれの専門分野でご協力を頂き、学問、芸術的にもより高いものを目指しました。

イベントの時間が重複し、来場者が分散になることを心配しておりましたが、多くの企画も盛況でした。参加者、企画担当のスタッフの皆様に感謝申しあげます。ご来場の皆様方のご意見、感想などありましたら、9階のCSCポストに投函して頂ければ参考にさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

今回は予想以上の来場者がありましたので、余剰金が発生しております。この資金の一部は、埼玉SCと関連が深く、東日本大震災の被災地であります、陸前高田「ハナミズキのみち」の会に寄付させて頂きますとともに、今後のフェスタに必要な物品の購入に充てさせていただきます。詳細は、学習センター内に、決算報告を掲示しますので、ご参照ください。

以上ご来場の御礼を申しあげるとともに、またのご来場をお待ちしております。

さらに、放送大学埼玉学習センターに興味をもたれ、共に学び、サークル活動にも参加して頂ければまことに幸いでございます。

事務室からのお知らせ

卒業証書・学位記授与式

2019年9月21日（土）午前11時、埼玉学習センター講堂において、令和元年度1学期の卒業証書・学位記授与式（卒業107名）が行われました。また、生涯学習奨励賞の授与もなされました。

《生涯学習奨励賞受賞者》

金剛賞＝髙橋三夫

金賞＝武村勝人、博井博、上田のり子

銀賞＝戸塚秀明、長橋勇

銅賞＝上村清人、森本博、矢内克幸、吉村純子、赤尾惠理子、山田三好、吉田憲一、加藤裕、大畑みえ子（敬称略）

入学者の集い

2019年度第2学期の入学者の集いが10月6日（日）尾山埼玉同窓会副会長、大島CSC交流会代表が臨席して開催されました。なお、学部93名、大学院7名の出席者がありました。

面接授業追加登録期間

面接授業の追加登録期間は、10月25日（金）から科目ごとに定められた追加受付期限（通常は開講日初日の1週間前）までとなります。

通信指導の提出期限

通信指導の提出期限は、11月29日（金）です。

郵送の場合は大学本部必着、Webの場合は17時までとなっています。未提出・不合格の場合は、単位認定試験が受けられません。

学生手帳

「巨大台風襲来」

笹原誠二

強い台風15号は9月9日午前5時、千葉市付近に上陸。最大瞬間風速は約58mで、早朝までの24時間降水量は実に440ミリ超で、関東直撃型としては、統計史上最強クラスの台風となり、各地に甚大な被害をもたらした。

この台風の影響で、千葉県を中心として92万戸の停電と3日間にわたる各種交通機関の主要路線が運休となり、大混乱となった。翌10日以降も、1都4県で高圧線鉄塔や電信柱の倒壊による停電が続き、特に千葉県では2週間以上も送電がストップしたままの状況が続き、更には断水も重なって、日常生活に支障をもたらした。

生活ラインの維持のためには、まず電気と水の供給が大前提となる。しかし台風襲来後、10日間経っても、まだ15万戸の大規模停電が続いていた。今や私達の日常生活にはオール電化、上下水道の普及が当たり前の意識で、停電、断水状態が長期間に亘る生活は考えてもいない。スイッチをひねれば、直ぐに電気がつき、新鮮な水が供給されて瞬時に文化的な生活が保障されると考えている。今後は、風呂の残り水の溜め置き・再利用や飲料水のくみ置き等の身近な対応策を常に留意して実践する必要があるだろう。

続けて発生した台風19号は、更に甚大な被害をもたらした。暴風雨の範囲も関東全域、東北地方にまで影響を及ぼし、交通機関は麻痺した。河川の堤防が破壊され、大洪水の中で家や道路が浸水して、後片付けで未だに通常の生活に戻れない毎日が続いている。

一般公開講演会

◆11月16日（土）14時～16時
『「主観的なこころ」と「客観的なこころ」～こころと科学、永遠に結ばれない二人』
講師＝梶原直樹
（放送大学埼玉学習センター客員准教授）

◆12月22日（日）13時半～15時半
『がん哲学～教育・対話学の確立～』
講師＝樋野興夫
（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念館センター長、一般社団法人がん哲学外来理事長）

会場＝いずれも講堂

11月のサロン

日時＝11月10日（日）13時～15時
講師＝小澤基弘
（放送大学埼玉学習センター客員教授）

絵画サロン こざわ ⑧
『ドローイングとは何か。描くとはどういうことか』

お申込は埼玉学習センター窓口へ

俳句（つみ草）

十月十日　「川越吟行」

秋の空街に影置く塔屋かな　安代
秋の日の菓子屋横丁ニッキ飴　みさ子
風たちて羅漢の上の秋の蝶　幸宏
秋団扇氷川祭りの鉾人形　とく江
菓子の香の巡る城下や鰯雲　功
生醤油の桶の高々雁渡し　光娥
店蔵に出刃の研ぎ音秋澄めり　十詩
初雁や忍者屋敷の野天風呂　明美
秋晴の宝丹水の香りかな　由美
遣水の指につめたき秋の水　順
刃物屋の砥音軽し秋の空　厚子
蔀戸の三芳野神社こぼれ萩　八重子

《毎月第２木曜日　午後句会》

公開講演会『歌い継ぎたい童謡・唱歌～ピアノとともに』

現在の日本では、様々な音楽が溢れ、毎日のように新しい楽曲が誕生している。また、日本からは優れた音楽家があまた輩出され、世界中で活躍の場を広げている。

しかし、日本における音楽の歴史を振り返ってみると、日本には、古来から日本人が親しんできた日本独自の音楽があり、それらの音楽はいわゆる西洋音楽とは非常に異なっている。それでは、いつ頃から西洋音楽は日本に導入され、定着して来たのだろうか。

残暑が厳しい９月最初の日曜日。埼玉同窓会長の鈴木さとみ講師による「歌い継ぎたい童謡・唱歌」の公開講演会が、８階講堂にて開催された。

鈴木講師は、日本に初めて西洋音楽が導入された明治初期、日本唱歌の父と言われた伊沢修二が、どのようにして西洋音楽を小学校をはじめとする学校教育に定着させたかから話し始めた。そして、当初は輸入した楽曲に日本のわらべ歌の詩を当てはめて、最初の唱歌を誕生させたこと。その後の日本独自の唱歌や童謡が、どのような経緯で花開いていったのかを、理解しやすい言葉で丁寧に語りかけた。

鈴木講師によれば、「唱歌とは、楽器に合わせて歌曲を正しく歌い、徳性の涵養、情操の陶冶を目的とする教科目・その教科において用いられる歌曲」と定義づけられているとのことだ。

日本に最初に入ってきた西洋音楽は、キリスト教の宣教師達がもたらした賛美歌やミサ曲であったと言う。明治維新の後、西洋からの刺激を受け、西洋の文化に追いつくために必要な教科として、１８７２年の学制発布の際には、小学校の教科に「唱歌」が現れた。しかし、実際には教える教師も教材もなく、「当分之を欠く」という註が付された有名無実の教科だった。

一方、伊沢修二は、１８７５年のアメリカ留学の際、メーソンに音楽の個人レッスンを受け、帰国後は、東京師範学校長を務める傍ら、音楽取調御用掛を兼務した。また、１８８１年には、来日したメーソンの協力を得て、「小学唱歌」初版の出版にこぎ着けている。

最初の唱歌として記録されているのは、ドイツ民謡に野村秋足や稲垣千穎が詩をつけた「蝶蝶」である。当日は、職業は警察官であるという内山さんという若い女性がモデル歌唱をして、全員で「蝶蝶」を始め、沢山の唱歌や童謡を歌った。

当初は西洋の旋律に日本の国文学者が作詞した言葉を当てはめていたが、子どもには理解が困難で難解な言葉遣いの学校唱歌に不満が募り始めた。そこで「子どもに歌わせたい歌、読ませたい作品、子どもの信条を育てたい」という気運が盛り上がって誕生したのが、１９１８年に鈴木三重吉が創刊した「赤い鳥」である。その協力者として芥川龍之介、北原白秋、島崎藤村などが作詞者として、また、作曲者としては山田耕筰、成田為三、近衛秀麿などが名を連ねた。この流れは、その後、「金の星」へと改題した「金の船」の創刊へと続いてゆく。

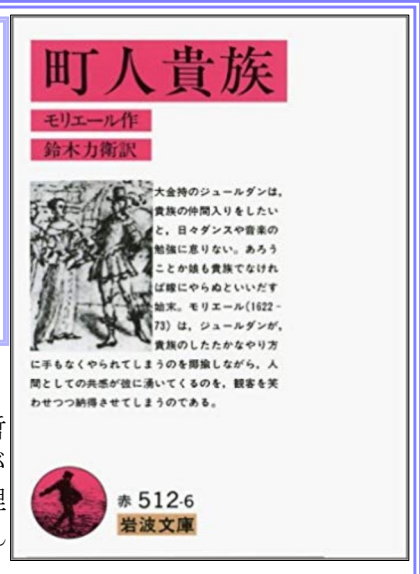
講演はその後、埼玉県出身の作詞家や作曲家の紹介になり、埼玉にも沢山の優れた作詞家や作曲家がいた事に気づかされた。最近は唱歌や童謡を知る若い人が少なくなっているが、唱歌世代、童謡世代にとっては懐かしい歌曲を全員で歌い、和気藹々とした楽しい講演となった。（冬）

私の本棚から

実践女子大学
美学美術史学科教授
椎原伸博

『町人貴族』

モリエール 作
鈴木力衛（翻訳）
岩波文庫



17世紀フランスの喜劇作家モリエール作『町人貴族（Le Bourgeois Gentilhomme.）』を紹介する。

この作品は1955年に鈴木力衛の翻訳により岩波文庫に収められ、長く読み継がれているのであるが、残念なことに我が国で上演される機会は少ない。この作品は、5 幕のコメディ＝バレ（音楽やバレエを組み込んだ喜劇）であり、モリエールの台本にジャン・バティスト・リュリの音楽で1670 年にシャンボール城における国王への娯楽として上演された。

さて『町人貴族』は、金持ちの市民（ブルジョワ）のジュールダンが、貴族になることを夢見る騒動を舞台にしたものである。そこでジュールダンは、貴族が身につけているであろう、音楽、ダンス、剣術、哲学などを教えてもらう設定となっているのだが、そこには理想的人間とは何かという問題も横たわっている。

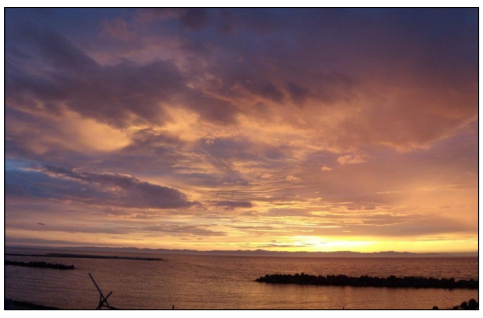
第一幕第一景で、音楽の先生がダンスの先生に、ジュールダンをおだてていれば金になると語ると、ダンスの先生は「おっしゃることに一理はありますがね、しかしあなたは少し金銭にこだわりすぎているようですな。金に目がくらむとは下劣千万。紳士たるものはそんなに執着をみせるもんじゃありませんよ。」と答えている。音楽の先生はダンスの先生に、あなたも金をもらうことに喜んでいるじゃないかと反論すると、ダンスの先生は「もちろんですよ。でもわたしはそれだけでは幸福にはなれませんね。あれだけ財産があるんだから、何かにつけてもう少しいい趣味を身につけてくれたらと思いますよ。」と語っている。（岩波文庫9頁）

この二人の会話に出てくる「紳士」とは、当時の理想的人間のモデルであったオネットム（honnête homme）であり、ダンスと音楽の先生は、自ら「いい趣味(bon goût)」を身につけている自負があるのだろう。さらに剣術の先生が登場し、音楽とダンスよりも剣術の方が優れていると話になると、三人の先生たちはそれぞれの優越性を主張して言い争いになる。そこに、哲学の先生が登場し「理性こそわれわれのありとあらゆる行動の支配者」であるべきであると、三人をたしなめることになる。しかし、三人の先生が私たちは「学問」を行っていると発言すると、その言い争いに参加し「あんたがた三人とも ちょこざい千万、わたしの前でそんな生意気な口をきき、技術の名にさえ価せぬものにあつかましくも学問の名を与えるとは。かかる賤しむべき職業にふさわしい名前は、チャンバラ屋、歌うたい、スットコ踊りの師匠。」（岩波文庫28－29頁）と侮辱することになる。

ここで哲学者は、「学問（art）」と「技術(métier)」を比較しているのだが、現在私たちが普通に用いている「芸術(art)」という用語がまだ確立していなかったことを考慮すべきであろう。そして、芸術概念の成立史における重要な区分、つまりは「自由学芸（liberal arts）」と「熟練的技術(mechanical arts)」の区分の反映をみることが出来よう。さらに、理性に基づく「学問」という主張に、デカルトによって成立した近代合理主義哲学の反映がある一方、非合理的な美や芸術の判断を導くような「趣味」の問題も共存しているといえよう。この問題は、主観的な感覚的判断に対して、客観性を見出そうとする「美学」という学問が有しているジレンマでもあるのだ。

ところで、2000年に制作されたジェラール・コルビオ監督による映画《王は踊る》では、コメディ＝バレ、そしてフランスにおけるオペラ（叙情悲劇）が、成立していく過程が表現されていて興味深い。そこで《町人貴族》のシーンでは、第四幕のトルコ人が登場するシーンが再現されているのだが、エキゾチックなトルコ人を揶揄することは、18世紀に流行する「トルコ趣味」の先駆けでもあったのである。

サークル案内


日本海の秋の夕陽

サークルおおみや

★11月1日（金）
「紅葉の北鎌倉を巡る」＝鶴岡八幡宮、各寺院、美術館巡り散策

★12月5日（木）～7日（土）＝研修旅行「北海道うまいもん紀行」

江戸時代の古文書を読む会

★11月16日（土）勉強会（シーノ大宮７Ｆ）

★11月30日（土）勉強会（放送大学９Ｆ）

★12月15日（日）勉強会（放送大学９Ｆ）

W・W・M

★11月20日、27日＝練習

★12月4日、25日＝練習

★2月12日＝合同公演（３学習センター）プラザノースホール

健康体操研究会

★活動予定＝毎週火曜日（10時半～12時）

場所＝８階　講堂

★10月29日

★11月5日・12日・19日・26日

★12月3日・10日・17日
12月17日は、親睦会

熟年会

★パソコンクラブ＝午前＝自主学習（講師）午後＝講義方式

★10月29日、11月5日、19日。12月3日、17日。

★11月13日（水）10時＝名画座（第６講義室）

★11月12日（火）13時～　勉強会「空き家問題を考える」

朗読の会「こころ」

★12月10日（火）忘年会

★11月1日、8日、15日、22日＝いずれも金曜日　9時半～16時

★12月6日、13日、20日
時間と講義室は未定

編集後記

台風の多い秋でした。毎月のように、次々と巨大台風が日本列島を蹂躙しました。永年住み慣れた家が流された人。大切な方の命が失われた人。

被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を祈念いたします。（冬）

人生を語る・伝える交流会

我が道草人生

◆日時＝12月15日（日）
14時半～16時（13時半開場）
◆会場＝放送大学埼玉学習センター
９階　第２講義室
◆日程＝１部　作文朗読
（朗読の会／WWM協力）
講演『道草人生』
講師：白川好光氏
２部　交流会
「我が人生を語る・伝える」
◆定員＝４０名
◆参加費＝３００円
◆担当＝福盛田恵子（080-1242-7352）
主催：むぎの会／共催：ＣＳＣ交流会